

◆東方官衙南地区の調査—第99-2次

はじめに

この調査は、個人住宅改築に伴う事前調査として、権原市高殿町で実施した。過去における周辺の調査では、藤原宮に先行する複数の時期の建物群（第78-1次）、中世の池状遺構（第75-9次）、近世の井戸や南北溝（第81-2次）などを確認している。

調査区の層序は、上から近世以降の盛土、耕土、藤原宮期のベースである硬質の暗褐色砂質土（土師器・須恵器片を含む）、黄灰色細砂の無遺物層の順となり、今回の遺構は、すべて暗褐色砂質土の上面で検出した。

検出遺構と出土遺物

藤原宮期ないしそれに先行する7世紀の柱穴1基のほ



図13 第99-2次調査区全景 北から

か、中世の溝、近世以後の土坑などを検出した。

柱穴は、東壁沿いで確認したもので、掘形の一辺1.0m、検出面からの深さ0.75m。柱は抜き取られている。建物を構成する柱穴とみられるが、建物の規模や構造は不明。ただ調査区との関係から見て、西にはのびない。柱掘形から土師器と須恵器の甕、抜取穴から土師器杯H、甕などの破片が出土した。

中世の溝は、南北方向の溝と東西方向の溝の接続部分を確認した。幅1.4m以上、深さ0.4~0.5mで、埋土は上層・下層に分けられる。瓦器椀、土師器小皿、瓦質土器甕などが出土。中世の屋敷を方形に囲む溝の西南のコーナー部分となる可能性がある。

(小澤 毅)

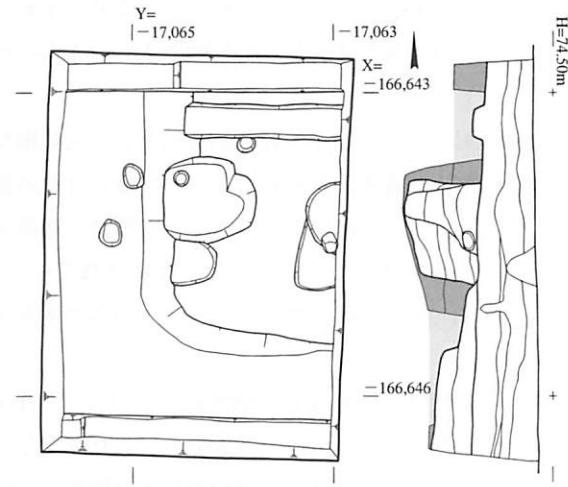


図14 第99-2次調査遺構図 1:75

表4 1999年度 現場班編成 ※総担当者

春	夏	秋	冬
松村 恵司（考古第2） ※花谷 浩（考古第1） 長尾 充（遺構） 伊藤敬太郎 播磨 尚子（研修）	巽 淳一郎（遺構） ※寺崎 保広（史料） 小澤 毅（史料） 村上 隆（考古第2） 渡邊 淳子 加藤 貴之（研修）	毛利光俊彦（史料） 西口 壽生（考古第2） ※小野 健吉（遺構） 鈴木 恵介	安田龍太郎（考古第1） 深澤 芳樹（考古第1） ※小池 伸彦（考古第2） 播磨 尚子 加藤 貴之
調査期間 99.3.23~99.9.14	99.7.1~99.11.11	99.9.17~99.12.27	00.1.7~00.4.13
総括：部長 黒崎 直			写真担当：井上 直夫／保存科学：村上 隆